**山谷　勇平 （やまや・ゆうへい）**

**１、プロフィール**

昭和25年に、福田栄一主宰の「古今」に入会、「青森古今」「地中海」「氷炎」にも作品を発表。教育界でも活躍したが、41歳で急逝した。

＜生没＞

1928（昭和３）年２月19日 ～ 1970（昭和45）年１月５日

＜代表作＞

歌集『あらくれ唄』

＜青森との関わり＞

旧制弘前中学卒業。県立八戸高校、国立八戸工専などで教鞭をとる。

**２、作家解説**

父が警察署長をしていた関係で、昭和３年２月19日、旧樺太庁真岡町で生まれる。４月に父は辞職し一家で郷里弘前に帰る。父は家業の神職に就く。昭和15年弘前中学入学、昭和22年に国学院大学予科に入学した。昭和25年、福田栄一主宰の「古今」に入会。教育界で活躍するかたわら、鎌田純一の「青森古今」、片山清美の「地中海」、奈良兵亮の「氷炎」にも作品を発表した。教職は40年から国立八戸工業高等専門学校講師となり、作歌活動も軌道に乗り、旺盛な創作力を示す。44年４月助教授に昇任、同年８月、古今歌集16編『あらくれ唄』を出版。豪快な異色の歌風を１冊の歌集に託したまま、45年１月５日急逝した。享年41歳であった。

代表作

血の色に咲きしカンナの花ひとつみつめをり妻のする帝王切開

羽博きしなりのままにて交尾しつつあへぐでもなく樹上に高く

よそ者のわれを導き暖くかばひてくれし靄村逝きたり

**３、資料紹介**

〇歌集『あらくれ唄』

図書

1969（昭和44）年８月10日

190mm×130mm

序文を寄せた「古今」の福田栄一主宰は「山谷勇平の文学が『古今』にあって全くの異色であるということ。山谷勇平の人間が、私の知るかぎり、全く異質であるということである」と記している。407首の短歌が収められている。